

★ 前号に引き続き、1年生の授業を紹介します。

【資料】「ふと目の前に」(「かけがえのないきみだから」より)

【概要】



俳優の森繁久弥さんの舞台での出来事が綴られた話。四国・松山で公演したときに、初めてお客様に手を合わせてお礼を言われるという体験をし、感激した森繁さん。

ところが、九州での公演のときにこんな経験を…。それは、芝居の間、一番前列中央の席の女性が下を向いているということ。舞台の上からはその席はよく見えるので森重さんと仲間は、代わるがわり彼女の近くに行き、舞台を強く踏む、大声でセリフを

言うなどしてその女性に嫌がらせをします。ところが、アンコールのときにその女性が顔を上げたところで彼女が全盲であることに気づき、軽はずみの判断で行動してしまった森繁さんは、申し訳ない気持ちでいっぱいになり、舞台をおりて涙ながらに拍手を送る彼女の手を握ったのです。



【わらい】

自らの一方的な考え方にとらわれることなく、謙虚な姿勢を持って自己の向上を図ろうとする心情を育てる。

【自他の尊重・寛容・謙虚】

《この資料から学んだこと・授業の感想》

- いろいろな人によって、いろいろな見方があることがわかった。自分の考えだけでなく、他の人の考えも必要だと思った。これからは、見た目だけでなく、よく見てから判断することが大事だと思った。
- この物語を通して、「すぐに決めつける」、「相手の様子をよく理解しない」自分がいるので、よく相手のことを理解して、すぐに決めつける行動はしないようにしたいです。
- 相手の気持ちを考えずに、自分の意見が正しいと感じてしまい、しかし、相手は違うのに決めつけてしまうことは多々あります。でも、相手のことをきちんと考える必要があります。僕もそういう経験があるので、気を付けたいです。
- かんちがいで他の人を傷つけてしまうことがあることがわかった。何でも自分が思ったことだけを正しいと思わないで、「こうかもしれないな」などと冷静に考えてみたいと思った。
- 今回の授業で、もう少し人の気持ちを考え、見た目だけで判断しないようにしようと思いました。これからは、もっと他人の気持ちを理解できる優しい人になりたいなと思いました。
- 人のことを少し見ただけで判断するのはいけないなと思いました。僕の周りの人も、少し見ただけでは悪いところもあるかもしれないけど、見方を変えれば良いところもたくさんあるので、これからは人のことをよく見て、その人がどういう人なのか判断したいです。
- かんちがいで他の人を傷つけてしまうことがあることがわかった。何でも自分が思ったこ

とだけを正しいと思わないで、「こうかもしれないな」などと冷静に考えてみたいと思った。

- 今日、誤解から嫌がらせをしてしまった人のお話でした。主人公の気持ちが分かります。誤解すること、されることがあったし、これからもあると思います。でも、誤解してすぐ嫌がらせをしったりしないで、そう思ったら確かめること、話すことって大切だと改めて分かりました。
- 周りの様子と、自分の見た目の判断だけで相手の様子を判断するのではなく、相手と直接話をしてみるなどコミュニケーションをとって相手を知る。
- 人を深く見ないで、見た感じだけで勝手に自分だけで判断しないで、その人のことをよく知ったりしてから判断した方がずっといいことがわかった。今後は、私も見た目だけで判断せずに、相手の中もよく知ってから行動していきたいなと思った。
- 私も、人のことをかんちがいしてしまったり、反対に人にかんちがいされてしまったりしたことがあります。人それぞれちがうんだということが今日の授業で改めてわかったので、家族や友達、自分以外の人の考えをしっかりと聞けるようになりたいです。そのことで、人を傷つけたり、いやな気持ちにさせてしまったりしないように気をつけたいなと思いました。
- 自分も誤解をして、相手を傷つけてしまうことが多くあるので、自分の考えだけでなく、相手の考えも尊重して、良い関係を築いていければいいなと思いました。
- 私も、見た目や噂だけで人を判断してしまうことがあります。そして、その子には近寄りたくないとか、話さないなど心で決めてしまうことがあります。だから、相手を不快な気持ちにさせてしまうんだなということが分かりました。人を見ただ目で判断することは絶対に駄目なんだということも学びました。
- 相手とのコミュニケーションをとり、自分の気持ちを伝え、相手のこともわかるようにしておくことが大切だと思いました。これからの生活に生かしていきたいです。
- 同じことでも、人によって見方が違うことが分かりました。人の意見を聞かないと違いがわからないということもわかって、いい勉強になったと思います。
- 決して攻撃的なことをせず、「何か理由があるのかもしれない」という気持ちをもつこと。誤解してしまった場合には、心から謝る！！
- 私は、自分が思ったことをすぐに人に言うてしまうことがあるので、相手は何かしらの理由があるかも…ということを入念に入れて、人と話したいです。
- 早とちりをせず、その人にくわしい話を聞く。その人とコミュニケーションをして、相手のことをよく知り、誤解を生まないようにする。



左の絵を提示すると、「つぼの絵」に見える人もいれば、「向き合う人の顔」に見える人もいます。一度、一方の絵として見てしまうと、なかなか他の絵には見えないかもしれませんが、「黒の部分を中心に見る」、「白の部分を中心に見る」というように見方を変えれば、二通りの絵

に見えるはずでず。つまり、見方は一つではないということです。

人は、自分の考えや今までの経験などから物事を一方的に判断したり、見たりしたりしてしまうことがあります。でも、それは、時に偏ったものの見方、考え方になり、人間関係づくりに影響を与えてしまうこともあります。「自分の見方や考え方だけが全てはない」「物事は見方、考え方によってとらえ方は変わる」ということを心に留めておきましょう。人にはいろいろな立場や事情、考え方があることを考えながら関わっていくように心がけ、互いが気持ち良く生活できるようにしていきましょう。

『私たちの道徳』P72～73より

人にはそれぞれの考え方があり、個性がある。

人間がある物事を見るとき、

初めからその全体を知り尽くすことは難しく、

自分なりの角度や視点から見ることになる。

このため、

人によって様々なものの見方や考え方が出てくる。

しかし、

誰もが自分の意見だけにこだわっていたのでは何も解決しない。

自分と同じように相手にもその立場からの意見があり、

その立場に立って物事を眺めれば、

きっと新たな発見がある。

互いの個性や立場を尊重し、

相手との違いを認め、謙虚に学ぶことで、

より良い解決方法が見つかる。

そして、自分自身の成長にもつながるだろう。



切り取り線

※「道徳だより」や道徳授業へのご意見・ご感想などをお聞かせください。

【提出は担任にお願いします。】